

発 行 わがまち大田  
 六郷地区推進委員会  
 編 集 「六郷わがまち」編集委員会  
 事務局 大田区六郷特別出張所  
 〒144-0055  
 大田区仲六郷 2 - 42 - 2  
 電話 03 (3732) 4885 代

# 六郷わがまち

六郷特別出張所管内	
人 口	男 31,738 名
	女 29,963 名
	計 61,701 名
世帯数	27,630 世帯
平成 11 年 9 月 1 日現在	

## 21世紀への「まちづくり」(上)

### 町会長・自治会長15人が語る

新しい世紀に向かって、六郷の自治体はどのように対応しようとしているのか。紙面の都合で、本号ではまず南六郷・東六郷の8人の方に、それぞれの現状を踏まえてのご意見を発表していただきました。

#### ボランティア活動のさらなる充実を

南六郷一丁目町会  
 会長 中村占太郎



わが町会は2001年に創立50周年を迎えるので、記念事業を盛大に行うとともに、地域から信頼される町会として限りなく前進してゆきたい、と考えている。

事業としては、敬老会・書道教室はじめ、毎年8月に多摩川

河川敷で行うスイカ割り・花火などの子供レクリエーション大会、その他リサイクル活動もきわめて活発で住民の間に定着している。福祉の面では、厚生部の役員が民生委員と協力して、一人暮らしの老人や障害者の家庭を慰問して大変喜ばれている。

◆東京都知事に表彰される  
 また南一長寿会は日頃からの熱心なボランティア活動が認められ、平成11年度優良老人クラブとして、大田区を代表し、10

#### 防災対策を講じて安全で明るい町に

南六郷二丁目町会  
 会長 渡邊秀雄



元日の朝、町会運営のモットーである「安全で明るく楽しい町」になるように、役員一同礼装して御嶽神社に参拝祈願している。

とりわけ安全を期するために、当町会では防災訓練に力を入れ

ている。10数年も続いている多摩川河川敷での秋の訓練では、防災対策委員会の規約によって町会長が本部長となり、広報部・防災部・予防部・調達部がそれぞれ部署につき、各班長に引率された会員600〜700名が、避難訓練を兼ねて集合する。

起震車での震動体験、煙体験、応急救護、消火器による初期消火、倒壊家屋からの人命救助などを、消防署員10数名と防災委員の指導によって交替で行い、最後は市民消防隊が燃える仮小屋を消し止めて終わる。きびきびした消防隊の行動は、ここ10

数年月1回の訓練を欠かしたことの成果である。

◆親睦深める鎌倉歴史散歩  
 会員相互の親睦を深めるためには、年に1〜2回、鎌倉歴史散歩を行っている。これも10年以上続いている行事で、もう案内するところがないと、引率者がこぼしているほどである。他にカラオケ教室、カメラ同好会などがある。

21世紀に向けて目下、65歳以上で体が不自由な方や一人暮らしの方の名簿を、120名の防災委員と班長の協力を得て作成中である。

#### よりよい環境づくりに多彩な活動を

南六郷二丁目団地自治会  
 会長 高橋文男



わたくしたちの自治会は、多摩川に面して建てられた公園住宅に居住する人々で構成されている。したがって北海道から沖

縄まで全国各地の出身者が住んでいる。結成以来29年を経て、当初の平均年齢36歳が55歳と高くなり、核家族の分散、高齢化現象が顕著である。年間約60世帯の異動があるが、若い世代の入居が切に望まれる。

自治会の事業としては、住宅のすべてが賃貸住宅のため、家賃改訂時には極力低く抑えるよう努力し、それなりの成果を挙げてきている。その他、敷地内にある区立公園の清掃、防災器

#### ◆21世紀へ態勢整備を急ぐ

さらには大規模な夏まつり、バス旅行、キャンプ大会、敬老の集い、バザー、新年の集い、餅つき大会、毎月1回の清掃デーなど多彩な活動を行っているが21世紀という新たな時代を迎えるにあたり、それに即応できるだけの態勢を今から整備していかなければ、と考えている。



**若い世帯多い町会  
の運営が重要課題**  
南六郷三丁目町会  
会長 小泉 隆

戦時中、この地域は工場の軍需景気で殷賑をきわめていたが、

昭和20年4月15日の空襲で焼け野原となった。戦後、中小企業が永年にわたって培ってきた技術を活かして復興し、GNP世界第2位獲得のために貢献したが、好事魔多しの諺どおり、バブル経済が破綻し、多くの工場が公害問題もあって次々と移転してゆき、その跡地に大規模集合住宅の林立をみているのが現状である。

◆工場の町から大きく変身  
当町会は、面積では六郷地区で一番広いが、人口はその逆で、工場が盛りの頃はピリから2番目という、企業主体の町会であった。しかし今では集合住宅の進出で、人口は六郷地区の平均値にまで増加し、古くからの居住者が少ない関係で、平均年齢は他町会より若いのではないかと推測される。

このように若い世帯を多く抱える町会の運営はどうあるべきか。これが今後の重要課題の一つである。小中学校の行事への積極的参加、子供を媒体とした親との接触を密にする子供会の回数をややしたり、少年野球・サッカーなどのリーダーに町会活動の世話人になってもらうなど、一歩一歩進めていきたいと思っている。



**行政に物申す地域  
住民主導型の町会**  
東六郷一丁目町会  
会長 中島 寿美

当町会は平成5年4月1日、公益法人町会として発足した。

町内の40%以上が工場敷地であり、京浜工業地帯では最も町工場の多い地域である。バブル崩壊後、大企業の倒産または合理化のため他地区への移転などが多発し、広大な空地がめだつ。将来この跡地に何が出来るかが、いま町民最大の関心事である。

◆災害弱者支援体制の充実  
主な事業としては、防災活動の一環として災害弱者支援体制を整えている。すなわち一般会員より救助要員を募集(現在35名)し、災害弱者の数、その健康状態、家族の状況、必需品の調達などを、年1回定期的に調査し実施している。また、必要に応じて町会役員を交え、災害弱者の状況把握と緊急時の適切な対応を内容とする合同検討会を開催している。今後いっそうの充実を期したい。

平成8年に落成した町会会館は、葬儀場、レクリエーション・学習会・会議などに活用されており、また隔月発行の『東一新聞』は、会員相互の情報交換に役立っている。

21世紀に向けて、行政主導の現在の町会の在り方から地域住民主導型の運営を理想としていきたい。行政に物申す体制づくりが必要だ、と痛感している。



**21世紀にはぜひ建設したい町会会館**  
東六郷二丁目町会  
会長 熊田 良三

当町会は、水門通りに並ぶ商店街を両側から挟む形で構成されている。最近若い役員も多くなり、PTA会長はじめ協力的な有志がふえて、町会の運営は円滑である。

年中行事としては、8月に行われる東六郷小学校PTAの盆踊り大会を、地元町会として共

催し、子どもたちや家族の夏休みの楽しみの一つとなっている。また毎年10月の第一土・日曜日に開催される「水門祭」には多くの模擬店が並び、民謡踊りの流しもあって、地元の活性化をうながすと評判になっている。

◆是正したいゴミ不法投棄  
現在最も頭を痛めているのは、

ゴミ集積所に規則を守らずポイ捨て同然の出し方をする不心得者がいて、近辺の人々に迷惑をかけていることである。ぜひ是正したい。

当町会には町会会館がなく、商店会館や老人いこいの家などを借りている状態で、その建設が21世紀の課題となっている。



**老人の健康増進と  
リハビリの施設を**  
東六郷三丁目町会  
会長 宮下 安由

当町会は、南北に走る第一京浜国道を背骨として、東西の道路が基盤の目のように交差し、工場跡地には大きなマンションと公共施設ができ、比較的にスツキリとした地域といえる。

町会の行事は、ほとんど東六郷児童館前の公園で行っている。

春・秋の交通安全運動、防犯パトロール、防災訓練、お祭りの神酒所、盆踊り、ラジオ体操など。なお、昨年結成された市民消防隊は毎週火曜日午後7時より訓練をしており、老人クラブは毎週金曜日を活動日として踊りの稽古などに励んでいる。

◆進む高齢化社会に備えて  
当町会には40年以上も前から町会会館があり、広く会員に開放して喜ばれているが、高齢化が進んでいるので、老人の健康増進やリハビリを目的とした公的施設が身近なところに欲しい、と願っている。



**21世紀へのはなむけ六郷橋新歩道橋**  
宮本町会  
会長 高橋 好行

昨年、創立60周年を迎えた当町会は、東に関西ペイント、西に旧東海道の国道15号線、それと並行して京浜急行、南に六郷

の渡しの後身である六郷橋、北には六郷の総鎮守である六郷神社があり、当町会はその「宮本」としての古い伝統をもっている。

町会はずねに年間計画にもとづいて活動しているが、最近の特筆すべき活動の一つに、六郷橋の人と自転車共用の歩道橋設置の運動がある。

平成9年12月、建設省の川崎国道工事事務所から、六郷橋2車線増設工事が完了したので開通式を行いたい、との連絡があっ

た。しかし、その時点で橋の東側に付けられた歩道橋は急勾配で、自転車利用者にはまったく使えない不便なものであった。

そこで地元の当町会が中心となり、須山連合会長はじめ隣接4町会の賛同を得て、自転車共用の歩道橋の設置につき、建設省側と再々交渉を重ねた。なかなか埒があかなかつたが、平成10年8月にいたり、東側の堤防上にゆるやかなスロープを付け、自転車も押しでのぼれるような

当町会の原案が承認されて工事が始まり、平成11年3月27日、開通式が行われた。

ねばり強い運動の結果完成したこの歩道橋は、21世紀へのはなむけであり、六郷側から渡る人はもちろん、川崎側の人にも大変喜ばれている。お役所のやるべきことがすべて正しいとは限らないのである。

追悼 編集委員小関信雄氏  
9月24日逝去。行年86歳。